

平成24年度 地域国際化ステップアップセミナー(東海地域)
基調講演

これからの多文化共生における “連携・協働”

2012年11月26日(月) @岐阜じゅうろくプラザ
静岡文化芸術大学 文化政策学部
国際文化学科 教授 池上 重弘

<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

HP

池上重弘研究室



本日の基調講演の構成

1. はじめにー基調講演の目的ー
2. ニューカマー外国人の増加と減少
3. 日本社会の変化
4. “連携・協働”をめぐる静岡県磐田市の事例
5. “連携・協働”に向けた留意点

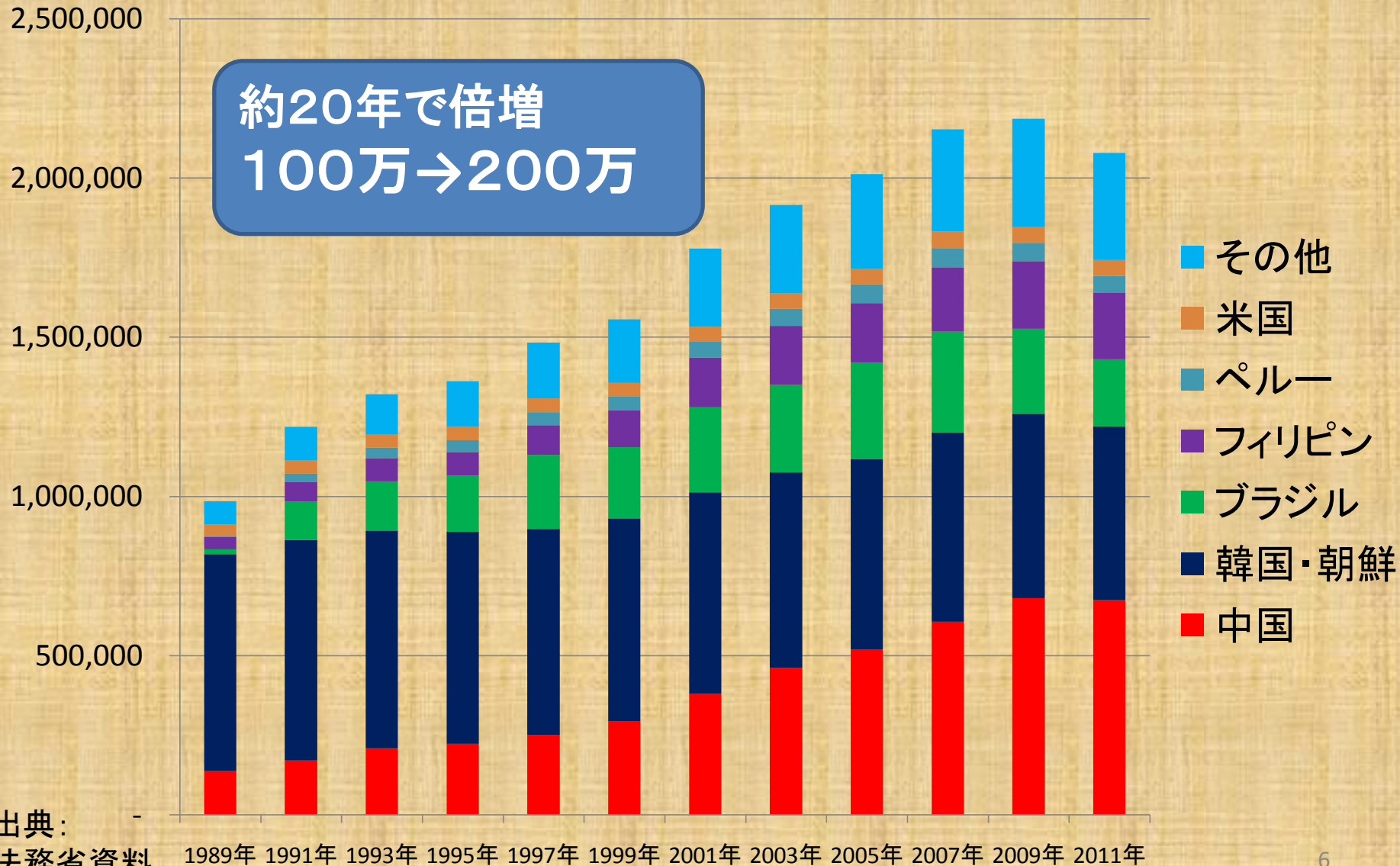
1 はじめに

基調講演の目的

- 外国人住民の動態と日本社会の変化
- 静岡県磐田市の連携・協働の事例
- 連携・協働の留意点→パネルディスカッションへ

2 ニューカマー外国人の増加と減少 ーピーク以後微減、しかし定住化が進むー

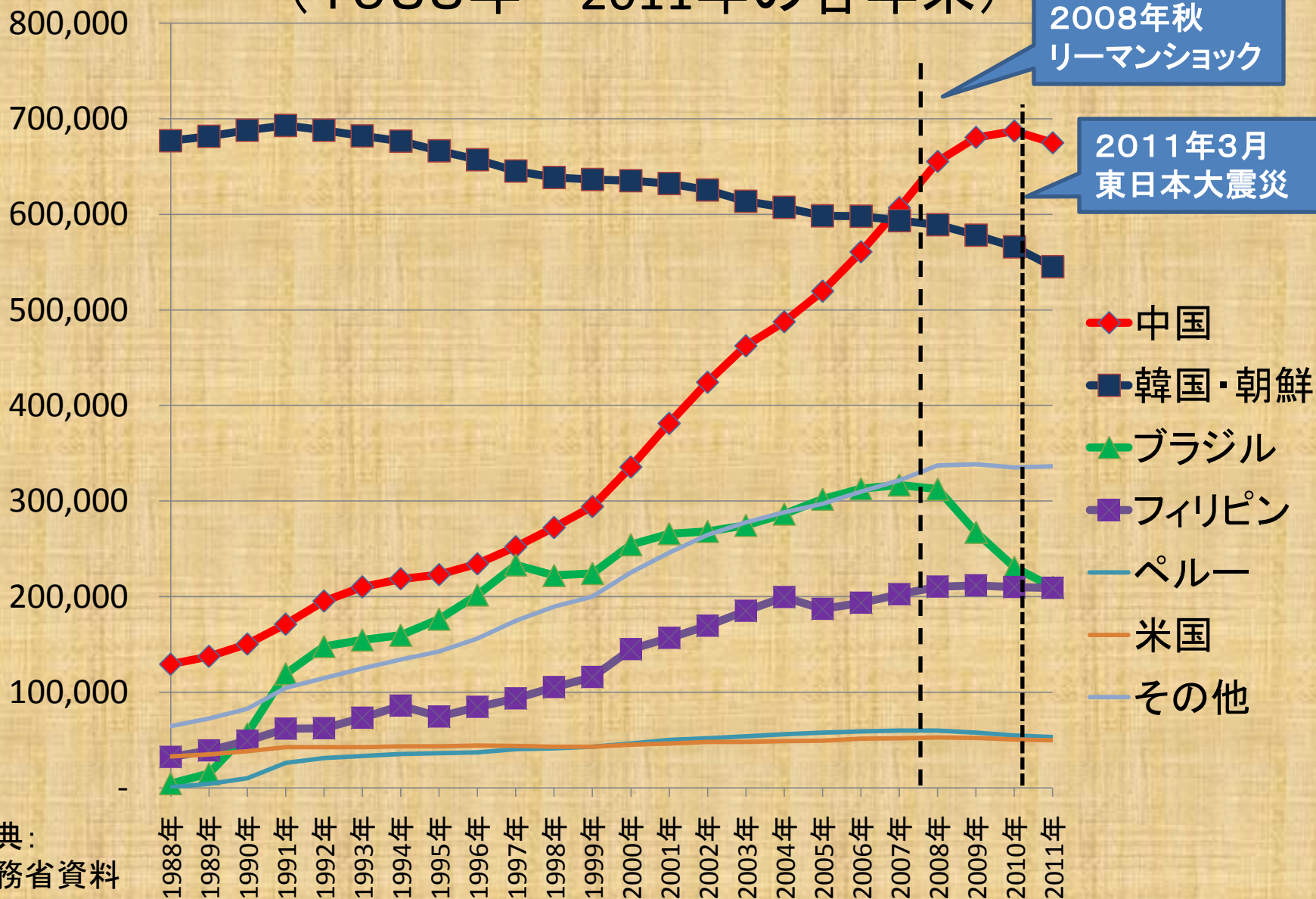
外国人登録者数の推移 (1989年～2011年の奇数年末)



出典：
法務省資料

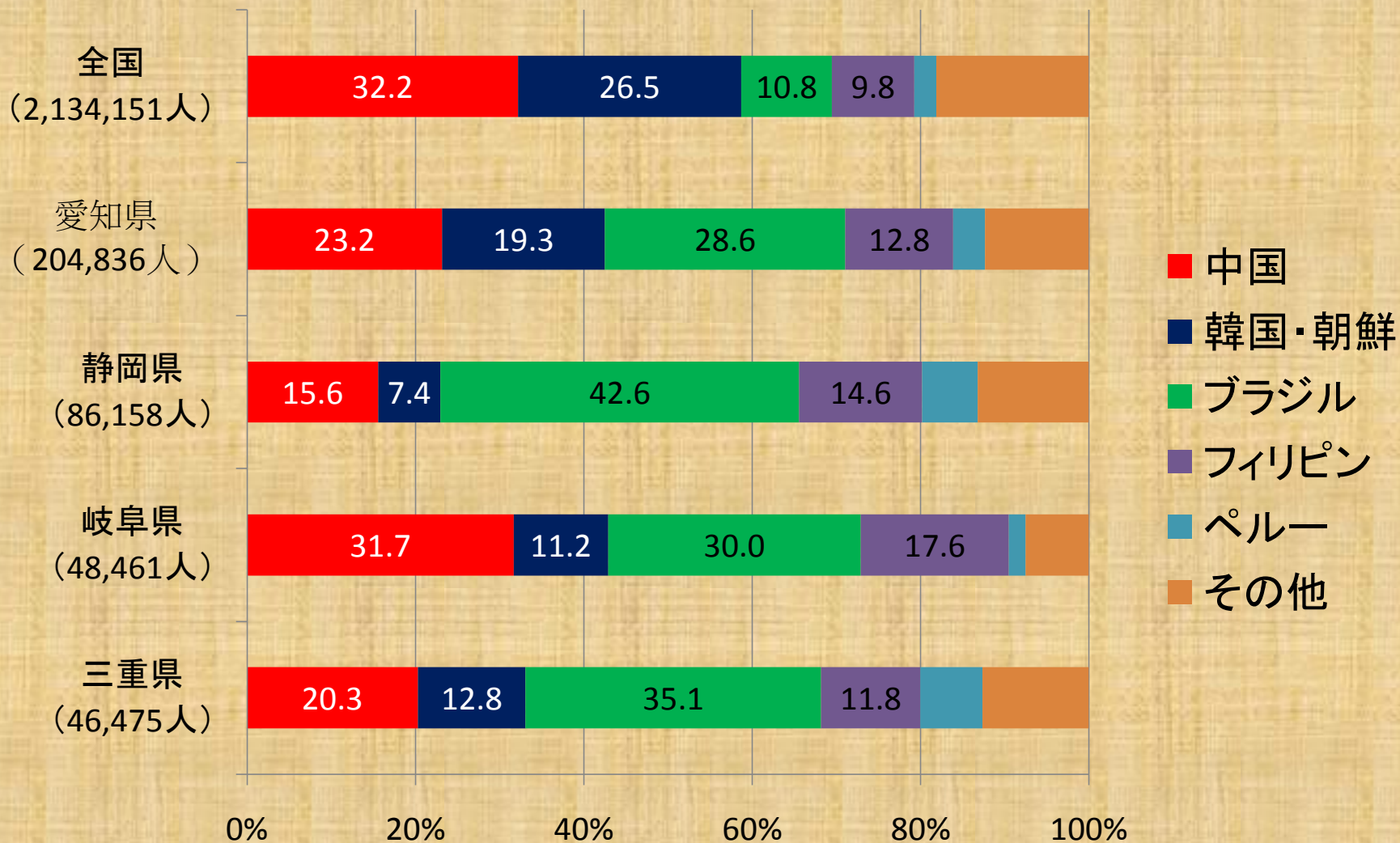
国籍別の外国人登録者数の推移

(1988年～2011年の各年末)



出典：
法務省資料

国籍別比率の比較(2010年末)



出典:法務省『在留外国人統計』平成23年版

在留資格の永住/非永住に注目して 2000、2005、2010の各年末で比較

	2000年末	2005年末	2010年末
外国人登録総数	1,686,444	2,011,555	2,134,151
□永住	657,605	801,713	964,195
%	39.0%	39.9	45.2%
一般永住者	145,336	349,804	565,089
%	8.6%	17.4%	26.5%
特別永住者	512,269	451,909	399,106
%	30.4%	22.5	18.7
□非永住者	1,028,839	1,209,842	1,169,956
%	61.0%	60.1%	54.8%

出典：
法務省資料

2000年から2010年の10年間で、永住者は約30万人増加。とくに一般永住者が急増。

「一般永住者」の条件

- 法律違反なし
- 納税義務履行等
- 原則として10年以上在留

10年在留要件の特例

- 「定住者」: 5年以上
- 「日配」や「永配」:
実態を伴う婚姻3年以上
かつ日本に1年以上滞在

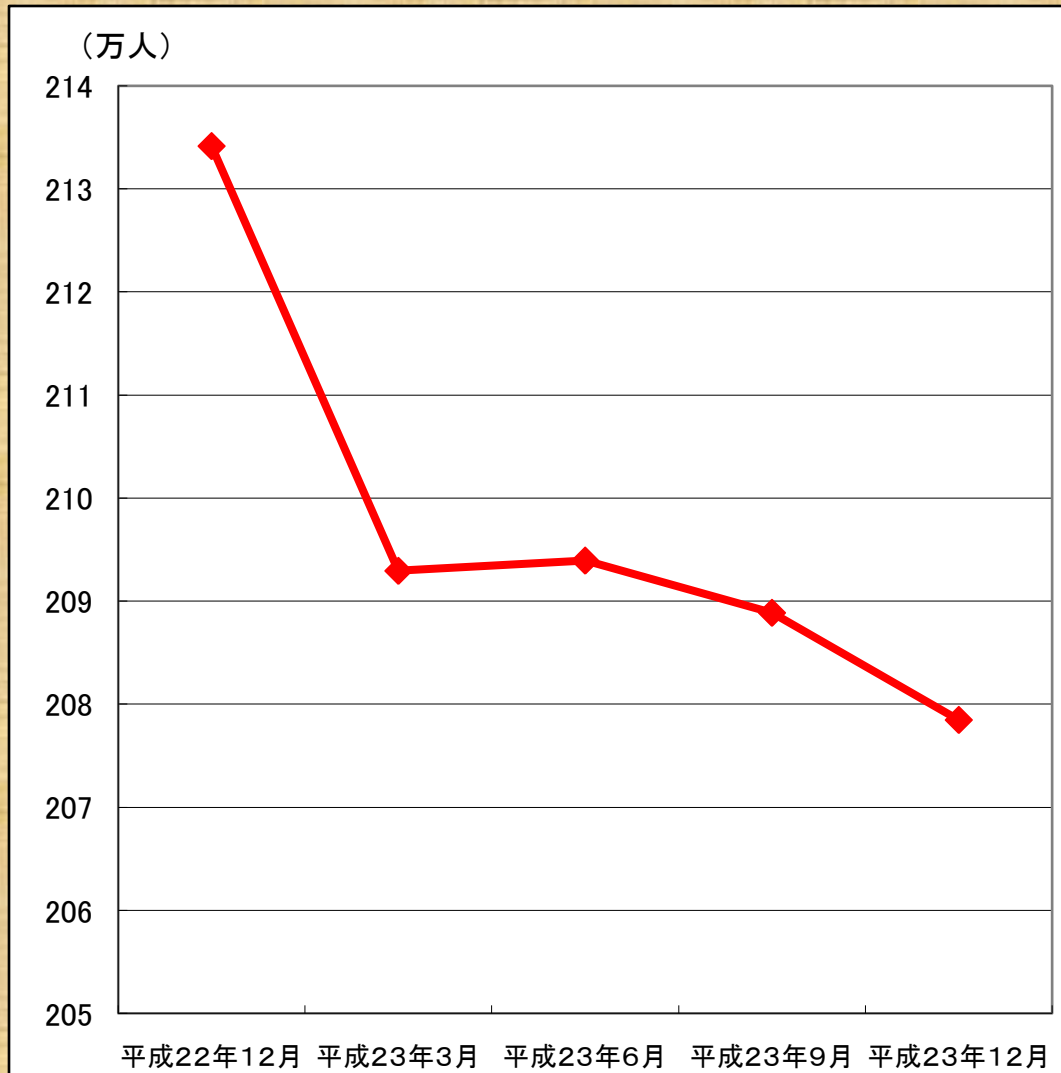


一般
永住者
増加

東日本大震災前後の推移

(3ヶ月ごとの外国人登録者数)

出典：
法務省資料



- 2010.12→2011.3
4万人急減
- 2011.3→2011.9
209万人前後で
大きな変動なし
- 2011.9→2011.12
1万人減少

2010年末→2011年末
5.5万人の減少

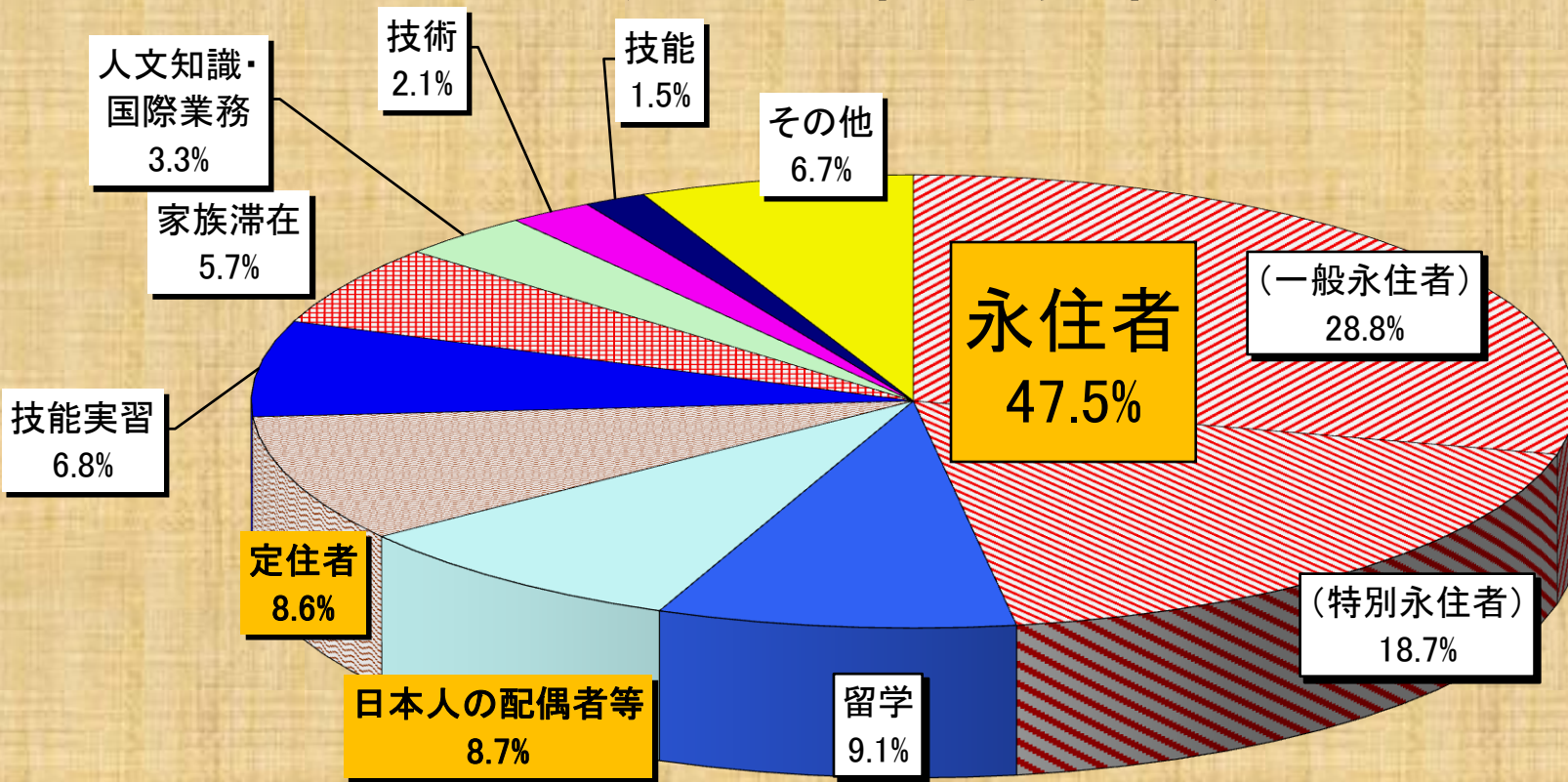
2010年末と2011年末の外国人登録者総数と 永住者数を比べてみると・・・

	2010年末	2011年末
外国人の登録総数(人)	2,134,151	2,078,480
増減		▲約5.5万人
永住者(人)	565,089	598,436
増減		約3.3万人

出典:法務省資料

全体では5.5万人の減少
しかし永住者は3.3万人増加

在留資格別にみた外国人登録者の比率 (2011年末現在)




出典：
法務省資料


永住者 + 日配 + 定住者 = 実質的な「移民」
47.5% + 8.7% + 8.6% = 65%

ここまでのまとめ

1990年の法改正以降、
日系人労働者が急増



2000年代に定住化が進む
長期滞在、家族滞在の増加



金融危機と震災以降、帰国者増加
しかし、留まった人には定住志向も

しかし、就労基盤は不安定
それが各方面に影響

3 日本社会の変化

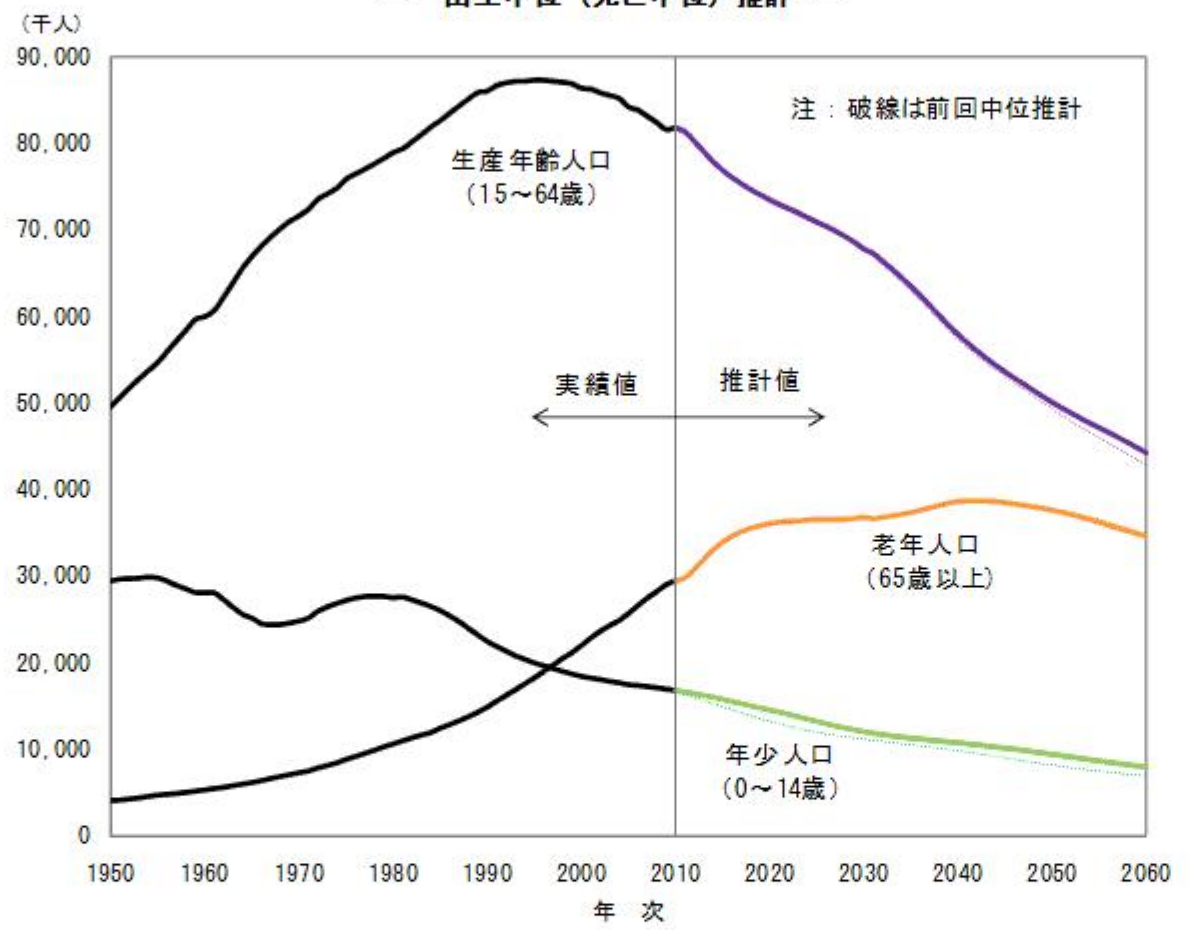
推計結果

日本の将来推計人口(平成24年1月推計)
—平成23(2011)年～平成72(2060)年—

前へ 次へ

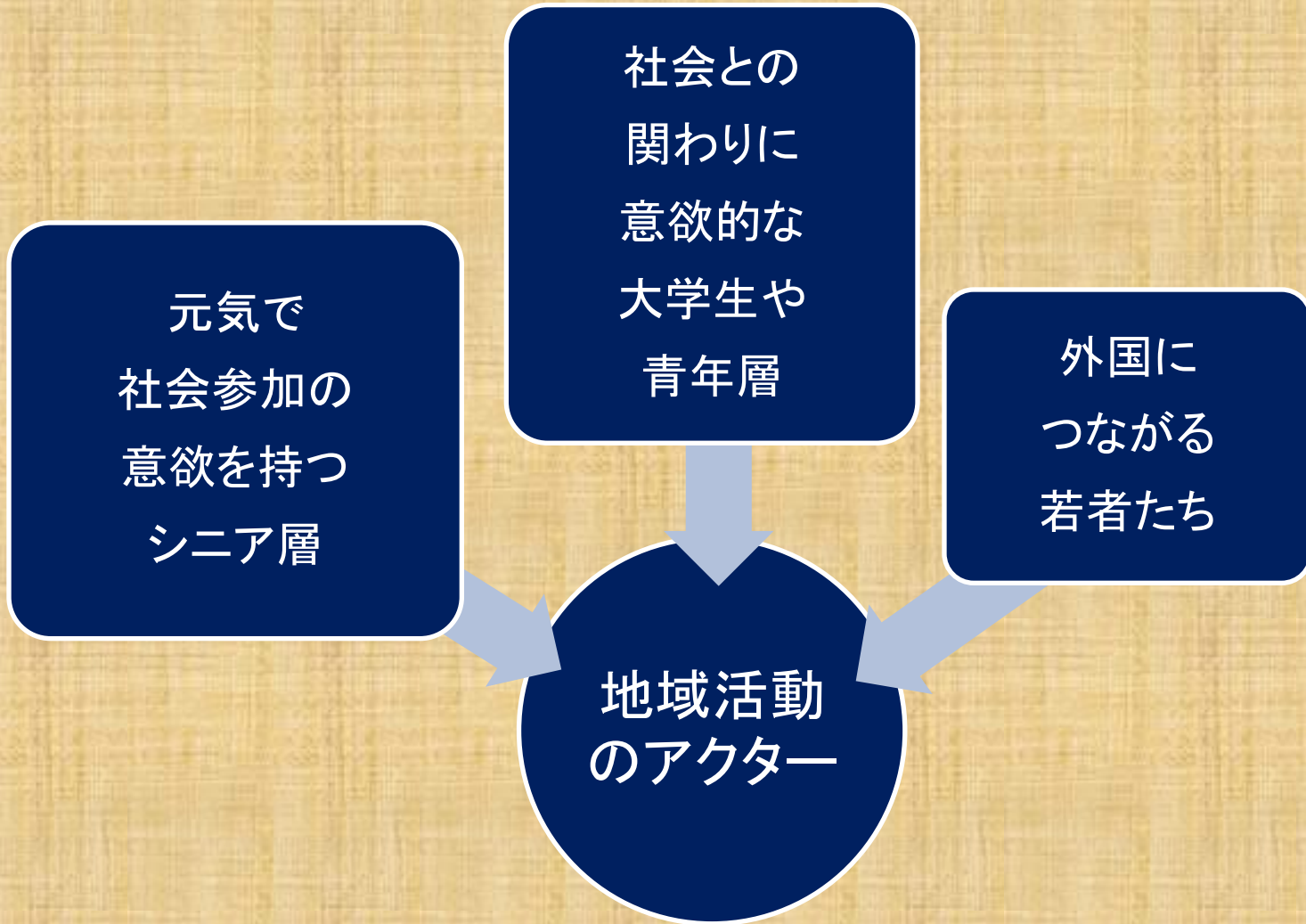
少子高齢化は
今後も続く。

図1-3 年齢3区分別人口の推移
— 出生中位(死亡中位)推計 —



出典：国立社会保障・人口問題研究所

一方で



4 “連携・協働”をめぐる 静岡県磐田市の事例

静岡県磐田市

- 多文化共生施策の先進都市のひとつ
- ブラジル人を中心にいくつかの地区に集住。

(2010年10月末)	全体	外国人登録	外国人比率
磐田市全体	174,482人	7,613人	4.4%
東新町団地	1,391人	740人	53.2%

- 磐田の特色

- 活発な自治会活動
- 多文化交流センター
- 磐田市多文化共生社会推進協議会



多文化交流センターでの学習支援

ー地域住民／自治会／行政

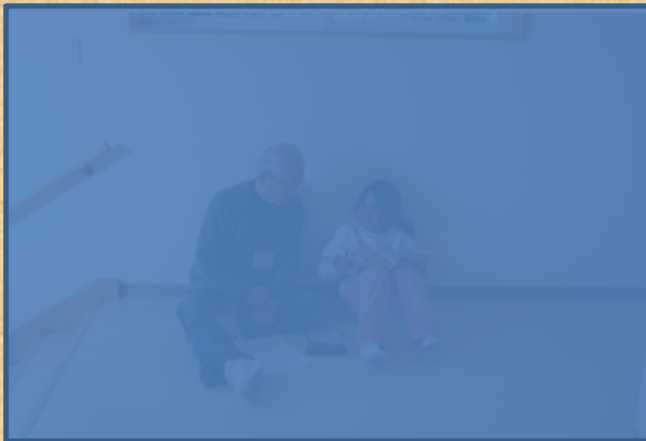
多文化交流センターの外観



2階の教室は勉強するところ



廊下に座って本読み



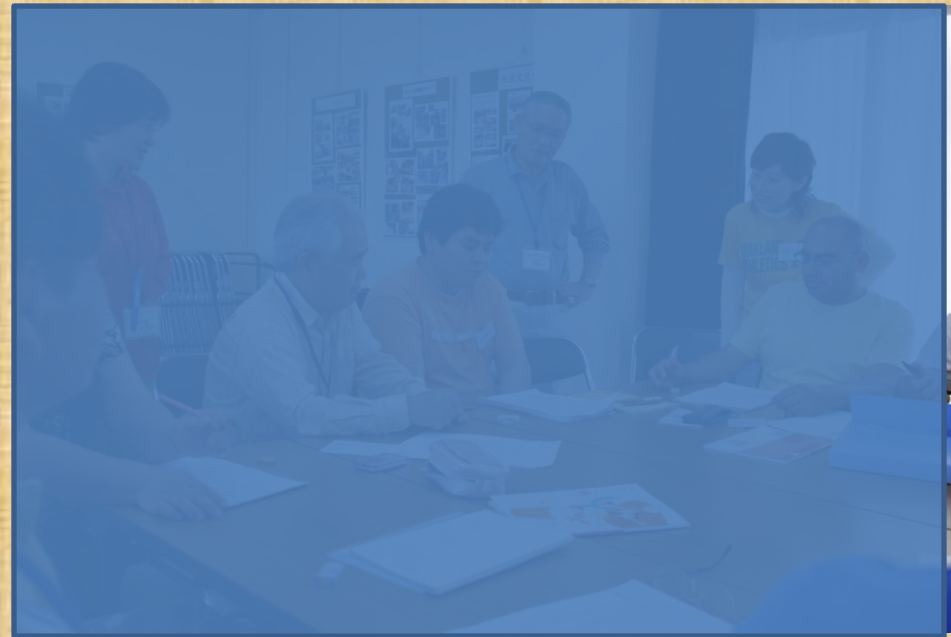
1階の広間は遊ぶところ



いわしんバモス日本語教室 — 地域住民／自治会／公民館／行政／企業

リーマンショック後に地域で開始

地元金融機関が資金面で協力、
公民館を活動の場に地域住民も
「おしゃべりボランティア」で参加



静岡文化芸術大学のいわたプロジェクト —大学／地域住民／行政／学校

外国人中学生の高校進学を
視野に入れた学習支援



地域住民の活動に大学生が
加わる形



2011年度に特別研究の一環として多文化交流センターの学習支援開始。
2012年度はブラジル人学生も参加。
さらに浜松市内の中学校で独自支援開始。

5 “連携・協働”に向けた留意点

- 行政に求められる心構え
 - 「安い下請け」ではない
- 外国人当事者の参画
 - 社会参加の足場として
- より大きな文脈への接続
 - “ガイジン好きのインテリ”にならないように
- ユニバーサル・デザイン(UD)としての視点
 - みんなが生活しやすい社会づくり
- 若い世代の参入を
 - 地域活動に関心を持つ若者の未来に希望を！

ご清聴ありがとうございました。

**この後のディスカッションが
とても楽しみです！**